

平成22年度第2回新潟県公立大学法人評価委員会

～議事概要～

1 日時 平成22年8月11日(水)13時30分～

2 場所 県庁201会議室

3 出席者

(委員) 田中委員長、青木委員、浦田委員、尾畑委員、坂井委員

(県立大学) 猪口理事長、熊谷副理事長 ほか2名

(事務局) 杉山知事政策局長、本間総務管理部副部長、嘉藤行政改革推進室長、唐沢文書私学課長 ほか5名

4 次第

(1) 開会

(2) 議事

ア 平成21年度財務諸表について

イ 平成21年度業務実績に関する評価について

(3) 閉会

5 議事概要

「○」: 委員、「◇」: 県立大学、「□」: 評価委員会事務局

(1) 平成21年度財務諸表について ～唐沢文書私学課長から説明後質疑～

○ 損益計算書と次のページのキャッシュ・フロー計算書についてお聞きしたいのですが、まず損益計算書で経常収益の項目の中に運営費交付金と授業料収益等々がありますが、ここに記載されている数字と、キャッシュ・フロー計算書のローマ数字Ⅰの中の運営費交付金収入や授業料収入など金額が一致するものもあれば、少し異なっている部分もあります。

例えば、授業料を見ますと損益計算書では2億8,300万。それに対してキャッシュ・フロー計算書の方では2億6,800万となっています。入学金は一致していますが。この違いは何になるのでしょうか。

◇ キャッシュ・フロー計算書の授業料収入につきましては、まさに授業料がキャッシュで入ってきた金額でございます。損益計算書の授業料収益につきましては、会計ルールで授業料収入に授業料の減免額を加えて計上してございますので、授業料の減免相当額が差違となります。

○ 減免というのは、具体的には、特別に何らかの理由で授業料を払わなくてもいいということでしょうか。

◇ 例えば生活保護ですとか、住民税が非課税ですとか、そういった要件に該当した学生に対して、大学の方で減免基準に該当する、ということで減免をしております。

○ 細かい体裁の話ですが、きちっと線が引かれていない箇所があるように思えます。例えば、

貸借対照表ですが、1 ページ目の流動資産の合計のところには線が引かれてないと、おかしいのではないかと思います。もう一つは5 ページのキャッシュ・フロー計算書の中段よりの下の財務活動によるキャッシュ・フローの利息の支払額の下、その下に財務活動のキャッシュ・フローは2,700 万と書いてありますが、その前に線がないとおかしいと思います。

□ おっしゃるとおりでございます。皆様の方にお配りした段階で、まだ転記がうまくなかったという部分もございまして、委員のご指摘のとおりです。

○ そうしますと数字自体は間違っていないでしょうかね。線を引いてより分かり易くなる、ということで。他に何かご質問、ご意見ございませんでしょうか。

○ 基本的には志願者増で増えているということであって、全て経営努力の結果であるとみなしてよく、目的積立金にするということでもよろしいのではないのでしょうか。評価委員会としてはどうでしょうか。ご意見ございますか。

～意見なし～

○ それでは平成 21 年度の財務諸表及び利益処分については、県が承認するについて特に意見はないということとします。

(2) 平成 21 年度業務実績に関する評価について ～嘉藤行政改革推進室長から説明後質疑～

○ それでは資料を基に大項目ごとの評価をまず行い、その後全体評価という形にしたいと思います。

大項目は教育、研究、地域貢献、業務運営、財務、自己点検、その他、とありますが、財務、自己点検、その他は、小項目の項目数が比較的少ないので、こちらから先に議論をさせていただき、多いものについては後から議論するというので進めたいと思います。

それでは最初に、(5) 財務に関する事項ですが、事業評価は a が 1 件、b が 6 件ということです。指標評価に関しては受託・共同研究と科学研究費採択が s ということです。

○ b が 6 件、s が 2 件、a が 1 件をどう考えるかという話です。全体を見るとどうであるか。受託・研究、科学研究費採択が年度計画を大幅に上回っているというのが非常にポジティブで、それ以外のところは概ね着実にやっている。

○ 大項目の評価も一旦決めたらもう変えないということではなくて、もし後で、やはりこれは少し変えた方がよいのではないかと、他の大項目との評価の均衡から考えてどうか、ということがあれば戻るといふことで。

例えば、ここは a と s よりも b の方がかなり多いので、ここは B だろうということでおき、後で検討したらどうかという気もするのですが、いかがなものでしょう

～委員全員了解～

- ここは暫定案としてBとし、次に行きたいと思います。
- 次は、(6)自己点検自己評価に関する事項ですが、これは実は1つの小項目しかありません。
- その1つの小項目がbですから、これはBしかないような感じがします。

～委員全員了解～

- 次は、(7)その他業務運営に関する事項です。これはbが6件、cが2件です。
- 情報セキュリティポリシーの策定など2つの小項目がcです。先程aが1件、sが2件でBにしたということからすると、このbが6件、cが2件をCの方に持っていくとなると、ちょっと厳しすぎるなという感じがします。
- これもBということでしょうか。

～委員全員了解～

- 次に(1)教育に関する事項ですが、これは小項目数が多いです。事業評価ではsが2件、aが14件あります。指標評価ではsが3件あり、留学生の派遣数がcです。分布をご覧いただき、これをどう考えるか。事業評価でいうと、定性的な方はb評価が36件、sが2件、aが14件。それから指標評価でいうとsが3件、bが2件、cが1件です。
- 項目数だけでいうとbが一番多いですが、sが全部で5件あって、aが14件ある。単純にaとsを足すと19件。bが38件だからbの半分だけa以上があるということ。更にsは、単純に足すよりは、aよりももう少し重みを仮につけるとすると、bよりは上の方の評価が半分以上ありそうな感じがします。
- 参考までに、sを5、aを4、bを3、cを2、dを1として、単純に計算するとですね、3.4くらいです。それだけ見れば、四捨五入するとbになってしまいますけれども。ただ、3.4というのはかなりいい、非常に3.5に近い。sというのは、5じゃなくて、もっと6とか7とかみたいに評価するのであれば、Aにしてもいいと思います。
- 今おっしゃったのは、比較的単純な小項目別評価を足しあわせたという話ですが、教育はかなり重要なところなので、もう少し定性的なことも含めていかがでしょうか。
- たぶん何がsかということですよ。小項目が58件あるわけですけども、その58件のウエイトは全部同じではなくて、もっともっとウエイトの高いもの、それがあれば、高く評価できる。

- sは大学理念、入学者受け入れ方針の周知徹底、教育GPなどへの応募体制の整備、志願倍率、離学した学生の割合、教育GP等採択数などです。
- 今おっしゃったような項目が非常に重要な項目のような気がしますので、BではなくてAでいいのかなという気がします。
- 先程の考えでいくと財務が3.6くらいなのでそちらの方がいいのですが、やはり色々な分野で項目が多い中で重要な部分でaやsをとっていますし、教育GPの採択数ですとか、離学した学生が少ない、志願倍率が11.2倍であることなどを勘案しますと、Aであることが適当だと思います。
- 事業評価と指標評価だと、全体的に指標評価の方がいい数字が出る傾向がありまして、事業評価と指標評価の重みが違うと思います。先程の考えでいくと、事業評価は3.3、指標評価は3.8となり、これを足して割ると3.5、四捨五入すると4になるのでAでよいのではないのでしょうか。
- 私も基本的にはいいのではないかと思います。確かに指標評価の方は、どうしても元々ターゲットを数値化できるもの、定性的評価ではないですから、どちらかという数字がいい方に出る傾向にあるのではないかと思います。それを加味したとしても、確かにこれはBにはできないと思います。
- 教育のこの面は、これだけ数が色々あって、その中で定性的評価であってもかなりaが多いというのは、全体としてみるとAであるということではないかだと思います。

～委員全員了解～

- この評価ですが、2年目にBになることもあり得るわけですね。
- それはあり得ると思います。常に評価がAとなるには、年度目標を相当上回っていなければいけないので、普通に考えるとAが毎年続くというのは、非常に超人的な組織であるということになるかもしれないですね。
ただ、評価をする時は難しいですね。普通によくやっている組織というのはBになるのですが、1年目にAがついてしまうと、2年目に普通にやってBという評価がつくと、成績が悪くなったみたいな印象は受けますよね。
- ということは、文章は「中期計画の進捗度が〇〇である」という言葉ですから、1年目は非常にいい言葉で出てくるわけです。2年目に入り、急に表現が後退すると、一体何が起きたのか、前の評価はどうだったのかということになりますよね。

- 年次目標にそういうことを書かないと、ちょっとわかりにくい。中期計画に対してその年度がどうであったかを書いた方がわかるのではないかと思います。そうしないと、後退した時に前の方に遡って修正したのかというように受け取られるのではないのでしょうか。
- 各年次目標が合理的に設定してあれば、それを毎年大幅に達成していくということは、理屈上は可能と思います。
- 次は(2)研究に関する事項です。研究には、事業評価が1件しかなく、それがb。指標評価はbが1件、aが2件、sが3件ということです。
- これは単純に数でやってしまいますと、bは2件でsの方がbより多い。aとsを足すと5件で、bとcを足して3件ということです。比較的単純に考えると上の方にいくのではないかという感じがします。
- 研究に関する事項の、事業評価の項目が1つしかないというのは、作り方の問題で、後で考えるともう少し研究についての定性的な事業評価があってもよいのかなと思いますけど、これがbであると。他の受託・共同研究数、論文数、査読付き論文数、科研費等の出願数、論文の引用件数と、この辺みんなよい評価ですが、いかがでしょうか。
- 今年は1回目なので、最初の目標の立て方が適正だったかどうかというのも問われているわけですよ。例えば、論文の数を見ると、実績が目標をすごく上回っているわけです。それでは、最初の目標の立て方、論文の目標数が低過ぎたのではないかということも考えられるわけですよ。
- 査読付き論文数が目標の10件に対して実績が82件となっています。研究者は結構、査読付きにこだわるのですが、本当に査読付きなのかという疑問といいたいまいしょうか、要するに自己申告ですから信用するしかないのでしょうかけれども、その辺何とも言えない気がする。
ただ、こういう数字が上がってきているわけですから、それはそれとして、評価してあげなくてはならない。
- 小項目で一番多いのはsなのですが、sが多いということは、やはり研究に関する事項はSになるのでしょうか。
先程のご意見を伺うと、Sまではいかないのではないかという、それなりのリザーベーションがあるのではないかということですね。
- 前回は指標の判断において基準となる検証、見にくい数字があるということでは言われていたのですが、例えば査読をいつの時点から始めたかということ、刊行された時と考えるしかないのでしょうか。出して、査読があって、それで修正等があって、実際に出版されるまでの時間を考えると、基本的には社会科学系及び人文科学系の大学ですから、1年間に82件というのは数字的にはおかしいという気がします。

そういうことを考えると、むしろ、順調によくやっているというBに近いという定性的な印象論もあります。ただ、あくまで数字ではA以上になっていますので、そうであれば、今後、事業評価の項目を少し多くするか、指標評価については証拠となるものを出すということ、次から依頼することとし、今回はやはりAというのが相当なのではないでしょうか。

- 独立行政法人という名前を出しているのであるから、もっと自己収入を増やして運営費交付金を減らすという、もともとの趣旨がある。その辺りを評価すると、査読付き論文が多くあるということも間接的に将来に跳ね返ってくるわけです。科研費を多くもらうとか、そういうところに跳ね返ってくるわけですから、そういう意味でここに出てくる年度計画の受託・共同研究とかを考えると、Sではないだろうという感じがします。
- 先程と同様の考えで、事業評価が3、指標評価が4、平均で3.5となるのでAではないかと思えます。cが1件あるのですが、次に向けての期待を込めてAということ。

～委員全員了解～

- 次の(3)地域貢献に関する事項です。bが8件、sが4件、aが4件、cが1件ということで、aやsとなった小項目は3ページにあります。
- 分布だけからいうと、教育に関する事項よりはいいような気がします。
- 指標評価でも事業評価のところでもないのですが、新規に公立の大学ができ、地域の人が学ぶ場所ができ、研究という大きな成果をあげているということ自体が地域に対する貢献だと思えますので、大項目の中でもしSがあるのであれば、地域貢献に他ならないと思っています。
- そうするとSというのもあり得るということですね。s評価は4件あって、これはa評価と同じですね。今の説明ですと、この地域貢献という大項目は、この中の小項目だけでは計れないという趣旨でしょうか。
- おっしゃることもわかる気はするのですが、この数字だけ見るとSというのはかなり甘い評価と言わざるを得ないのではないのでしょうか。bが8件あり、cも1件ある。私はAが相当だと思えます。
- 他の委員はいかがですか。
- Aに近いBといったところではないでしょうか。
- Bでよいのではないのでしょうか。

- 委員の中にはSに近い評価もあれば、若干Bに近い意見もあるということです。全体としてみるとAということでしょうか。

～委員全員了解～

- 次は、(4) 業務運営に関する事項です。ここはbが11件、sが1件、aが1件で、sは教員応募倍率、aは職員応募倍率と、職場として非常に魅力的だということが高く評価されたということです。
- 数字だけ見ると、これをAとするのは、なかなか難しいような気がします。進捗状況は概ね順調であるということで、Bではないでしょうか。

～委員全員了解～

- それでは、最初に見た財務に関する事項ですが、最初でしたのでBということでスタートしましたが、これについてご意見ありますか。
- 財務でいうと、先程の財務諸表の話も関係してきますが、ここでsが2件ある、評価項目が全部で9件の中で、sが2件あることをどう考えるか。
最後に目的積立金になるものに関しては、こういうのは入ってきても、費用がかかってしまうから余るわけではないですね
- 志願者が多い場合はどうなるのですか。
- 志願者が多いと余る。使わないから。
- 外部から資金を持ってきた場合は、使ってしまうから残らない。
- 財務に関しては、公立大学法人の趣旨からいうと本来余らせなくていいわけですね。
ただ、こういうものが入ってくると事業規模が大きくなります。運営費交付金だけではできない事業を、受託・研究費とか科研費とか一杯持つてくることでやれるという一面があるわけで、この辺をどう考えるか。
- それは研究に結びつくということで。研究がよいからこのようになっているという世界ですよ。研究する人がいない大学は科研費がとれないし、受託・研究費もとれない。
- そこを見れば、素晴らしいということなのですが、事業評価結果のところではbが6件あるというのが、全体をAにしづらいなというところ。
- 一応、Bということで当初は進めましたが。左側の円グラフを見ると、これでAというのは、

なかなか難しそうです。

- 単純にぱっと見た感じでは、これはどうかなという感じはあります。
志願倍率等こういうものは県立大学にとって非常に重要なものですが、ただ、bがかなりのウェイトを占めているので、ここでAではないかといわれると、ちょっとそれはどうかなと。
- それでは、財務に関する事項についての評価はBとし、受託・共同研究や科学研究費の採択件数が多かったことは高く評価できるというコメントのところで評価してはいかがかと思えます。そういうことを今後も続けるようにということですね。
そういうことで、評価はBということで、いかがでしょうか。

～委員全員了解～

- 大項目評価の順番に確認しますと、教育に関する事項は「中期計画の進捗は順調である」ということでA、それから研究に関する事項も「中期計画の進捗は順調である」ということでA、それから地域貢献に関する事項も「中期計画の進捗は順調である」ということでA、業務運営に関する事項は「中期計画の進捗は概ね順調である」ということでB、それから財務に関する事項は「中期計画の進捗は概ね順調である」ということでB。
ただ、外部資金を獲得したということは財務内容に貢献しているというような、これは準財務的な考え方というのでしょうか、外部資金の獲得の努力は高く評価できるということは入れた方がいいと思います。
その次、自己点検・自己評価に関する事項は「概ね順調である」ということでB、それからその他業務運営に関する事項は「概ね順調である」ということでB、ということですが。
さて、その上で、全体評価をしなくてはいけないのですけれども、評価書（案）でいうと何も書いていない、大きくイメージとしている3ページです。実態は、上から教育、研究、地域貢献がAで、業務運営、財務内容、自己点検・自己評価、その他業務運営がBですね。ですから、上から「順調」、「順調」、「順調」、それ以外が「概ね順調」ということです。
これをベースに全体を評価するとどうなるのかということでもあります。

- 今までの評価委員会の審議では、大項目の間に明示的なウェイトを考えるということはず、総合的に評価するというところでやっております。
ですから総合的に評価しなくてはいけないと思いますが、ただ、仮に大項目がみんな同じウェイトだということにすると、Bが多いということになります。明示的に機械的なウェイトを考えないとはいいますが、その他業務運営に関するところは小項目が8項目、自己点検・自己評価は1項目、財務は9項目というのに対して、教育などは全部で58項目もあるということをお案すると、いかがなものかという感じがします。

- 総合というのは、各項目において違うウェイトがあるのではないかとということでしょうか。
- あり得るのではないかと思います。いろんなウェイトを事前に作り、平均点を出すという評

価のやり方をとっているところもありますけど、ここではそうはしないで、全てを検討した上で評価委員会として全体評価をやらしていただきたいということだと思います。

ですから、これをどうウエイト付けして評価するかというのは、評価委員会の判断ということだと思います。

- まず大学という意味では教育と研究が非常に高いウエイトを占めるということ。それから、県立大学ということで地域貢献、これも重要であるということ。それが結果としてAになったわけですので、単純に平均すれば「概ね順調」になってしまうかもしれないけれど、そうではなくて「順調」でもいいのではないかという気がします。
- 私もウエイト付けしないということは危惧したのですが、おっしゃるように、ここで小項目の数の話が出てくると、それが見えないんですね。かなりの項目数がある中で全体評価をどうするか。その辺と今おっしゃった教育・研究をどうするか、どうしても判断する中で心の中にウエイトが出てくる。その辺を考えると私も「順調」でいいのではないかという気がします。
- 小項目数の違いですとか、一番大事な3つの大項目がAであることを考えますと、「順調」でいいと思います。
- 賛成です。また、これが新聞報道などで将来に対する印象を作るということもありますから、機械的に3.4になるから、というようにするよりは、新しい大学ができて重要な項目に努力している、それを示すために「順調」であるとするのがよいと思います
- 大学というのは、教育・研究をやる場所であり、それから県立大学というのはやはり地域との関係が深いということ、それからそれぞれの小項目数を考えますと教育・研究、研究はちょっと小項目数が少ないですけど、地域貢献など小項目評価の数を勘案しても、総合的にAというのが続いているので、全体としてはやはりこれは「順調」ということではないかと思いません。
- それでは、この全体評価は「順調」ということで、ご異論ございませんでしょうか。

～委員全員了解～

- そうすると、この評価理由のところを作らないといけないわけですが、最後のところは、「以上の点を総合的に判断し、中期計画の進捗は順調である」との判断となりますが、その前段のところです。

前段のところは、やはり小項目評価でsやaをとったものを列挙し、県立大学の使命を果たしていく上で教育・研究・地域貢献が重要であると総合的に判断したという書き方をしたらどうかと考えますが、よろしいですか。

～委員全員了解～

- 次に課題とか改善点、これについて意見を書かなければいけないのですが、これは基本的には小項目でc評価をつけたところについて指摘させていただくということではいかがでしょうか。
それから今後の進め方ですが、これらの作文を今ここで確定というよりは、本日いただいたご意見を参考にして、事務局と委員長の方でもう一度最終的な評価書案を作らせていただいて、それを委員の皆さまに書面でお示しして、コメントをいただき、最終的な文言の確定は委員長にご一任いただくと、そのような進め方をさせていただくことでよろしいですか。

～委員全員了解～

- それでは、そういう前提でさらにご意見ございませんでしょうか。

～意見なし～

- 大項目及び全体の評価に関する審議は、概ね尽くしたかと思えます。それでは本日の委員会
はこれで終了したいと思います。